

時短エクセル(第26回)

Excelで「今日は創業何年か」を一瞬で確認する

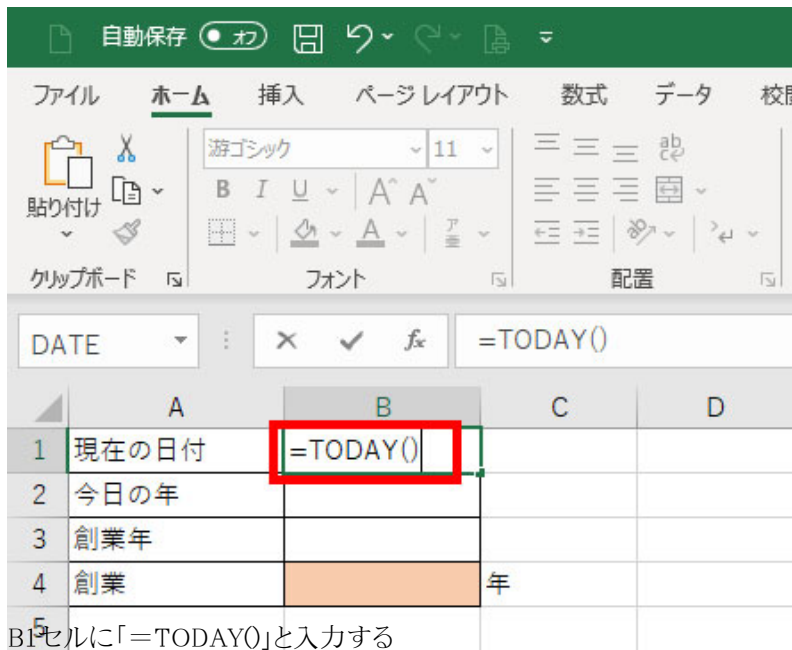
2020.02.05

現在は2020年。例えば1986年創業の会社は、今年で34年。もちろん、2020-1986という計算をすればよいのだが、「電卓を使って計算して、それをExcelに転記する」または「Excelに=2020-1986という式を立てておき、毎年今年の日付を書き直す」というのは、少し面倒だし、あまりにアナログ過ぎる。これを、Excelを開けばすぐに計算結果を表示してくれるようにしておけば、手間なしだ。

では、その具体的操作方法を見ていこう。

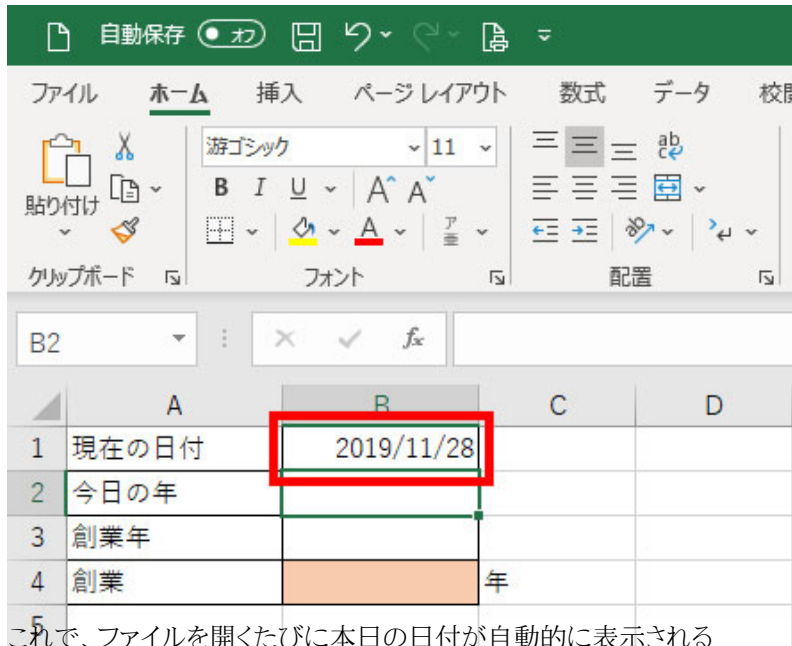
まずはTODAY関数で今日の日付を自動的に表示する

「今日の日付」は、TODAY関数で求めることができる。ファイルを開いたら、今日の日付が自動的に表示される関数だ。



DATE : X ✓ fx =TODAY()

| | A | B | C | D |
|---|-----------------------|----------|---|---|
| 1 | 現在の日付 | =TODAY() | | |
| 2 | 今日の年 | | | |
| 3 | 創業年 | | | |
| 4 | 創業 | | 年 | |
| 5 | Excelに「=TODAY()」と入力する | | | |

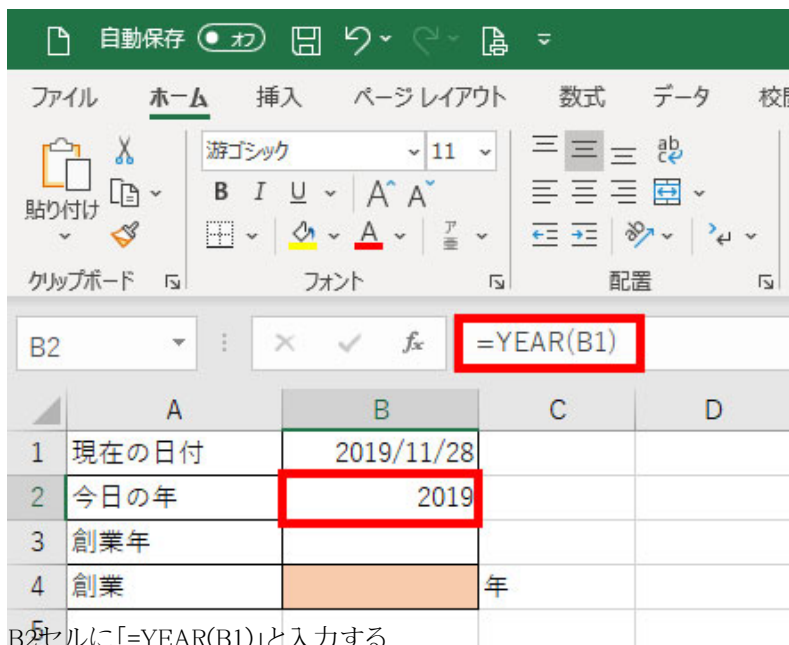


これで、ファイルを開くたびに本日の日付が自動的に表示される
 ※この画面で表示されている日付は記事執筆時のものです

引数は不要なので、()内には何も書かなくてよい。TODAY関数を入力すると、そのセルは自動的に表示形式が「yyyy/mm/dd」という日付の形式になる。

現在の日付から「年」だけを取り出す

次に、TODAY関数で求めた日付から「年」だけを取り出そう。



B2セルに「=YEAR(B1)」と入力する

このセルの表示形式は「標準」のままにしておく。もし表示形式が「日付」になっていると「1905/7/12」などと、意味不明な日付になってしまう。その場合は、「Ctrl」+「1」キーを押して「セルの書式設定」画面を開き、「標準」を選択しよう。

創業年を記入して計算する… 続きを読む